

優秀賞

絵本と実際の体験

小野 恭子

柳田先生、お变りございませんでしょうか。毎日を追われて、かつ家族も一人増え、気付いたら三年が経っておりました。

前回のお手紙の後、長男の航太郎の保育園へ入園許可を頂けまして、職場へ復帰しておりました。復帰後は、国内、海外と出張もしていた為、時には航を関西の実家に預けて業務をこなしておりました。そんな日々を一緒に頑張ってくれた航も、もうすぐ五歳です。何でも自分でやりたがり、手伝いたがり、知りたがりです。正義感の強いやんちゃ坊主です。ポケットに虫をいっぱい詰め込

んで来ない辺りは現代っ子で良かったかなと、私は内心ホツとしております。

航の最近のお気に入りの本は「絵本版豊臣秀吉」「ドリトル先生航海記」「はしる！新幹線のぞみ」などです。

以前、柳田先生に頂いたアドバイスの、「この子は幼いからまだ分からないのだ、と思いつくのは勿体ない」にとっても感銘を受けた為、絵本を選ぶ際には「難しそつだから」という思い込みを取り、興味を持ったものやもちそうなものを読んできました。そして、休日には絵本の世界の内、体験出来そうな機会があれば参加するのが家族の楽しみになりました。お祭り、稲刈り、荒川区のふれあい落語、音楽や絵画鑑賞、テーマパーク等で読んだ世界が現実目の前にあると興奮する様

子で、帰ってからもその本を何度も読まされます。特に主人の仕事の関係でこの夏は数ヶ月京都に滞在してありました。すると、「はしる！」の絵本は丁度東京から大阪へ親子で旅をする物語ですので、絵本の中で見た世界は正しく現実に目の前に広がる世界そのものです。絵本の中の車窓の景色と現実を見比べて大層喜んでおりました。また京都では日中、一緒に世界遺産等を巡っておりました。西本願寺、醍醐寺、建仁寺、智積院、養源院でもどこでも豊臣秀吉が説明に出てくるものですから、また何度も何度も読まされました。余りの回数が多さに私が匙を投げましたら自分で一生懸命読んでおりました。すると、次はその行った寺院や神社を誰がいつ建てたのか、これは豊臣か徳川か等に興味を持ち始めました。こうなる事を想定して

いなかっただけ、次はどんな本が彼の好奇心を満たし、かつ分かり易いかを未だ調べて居なかつたので夫婦で少々迷っておりますが、息子からの嬉しい宿題だと思つて、二人で意見を出し合っている最中です。そんな我々の話を聞いて「その司馬遼太郎の絵本読んでみたいな」と申すものですから、私達も読みたい位だな、と大笑いしました。

一方、このような地方と東京を行ったり来たり生活の中で私になかなか余裕がありません。そんな時は航太郎が妹に本を読んでくれます。彼女のブームは松谷みよこさんの「いないいないばあ」や「いいおかお」ですが、航太郎が彼女の好みに限らず、「わたしのワンピース読んであげたよ。恐竜の図鑑の方がよく笑っていたよ」と知らぬ間に様々な絵本を読んでくれていて、驚かされます。

もしかしたら、私共に当初は「読んで上げる」という感覚があったかも知れませんが、絵本を通じて親子や兄妹でコミュニケーションを取れるだけでなく、様々な実体験をより価値あるものにしてくれたり、また自分達の想像を超える興味や質問を持つ様になって来てくれており、子供から教えて貰う事がどんどん増えてくる中で、「子供達の反応が私達の喜びになっている」事に最近気が付かされました。

この様な面白くて楽しい濃い時間を今年も来年も、家族で過ごして行きたいな、と思った今年の夏でした。